



経営探訪
Management Report

株式会社 青山精工

顧客の要望に応えたい 難度の高い加工で新たな価値の提案へ

多品種少量の製造が可能
顧客の要望に利他の精神で
スマートかつスピーディーに対応

東北自動車道十和田インターにほど近い場所に本社を構える株式会社青山精工。鉱山が盛んだったこのエリアで、鉱山採掘現場でのボウリング工程に必要な部品の製造から事業を始めた。現在では機械精密部品加工、省力機の設計制作、セラミックスなどの硬脆性材の精密加工などを行っている。令和3年7月に先代である父から引き継ぎ、2代目社長となった青山亜起菜さんにお話を伺った。

鉱山のまち・鹿角で
ものづくりに徹する企業

株式会社青山精工は、昭和44年に「青山鉄工所」として創業したのが始まりだ。当時は小真木鉱山や小坂鉱山、尾去沢鉱山などが盛んで、ボウリング機器の部品製造から事業をスタートした。現在では治工具加工、精密機械部品加工を行い、特に難削材加工や微細加工などの難しい加工を得意としている。また、開発部門では省力機の設計から組み立てまで一貫して行い、顧客のニーズに合わせた細やかな対応を行っている。

「先代のころから顧客第一の精神で、多品種少量の依頼に対応し、納期・品質・価格の面でお客さまのお役に立てるよう努めてきました。コロナ禍で売上は落ちましたが、先代の

頃から取引先のウェイトが特定のどこかに偏ることなく、割と分散型だったおかげで、幸いなことに大きな影響はありませんでした。

現在、最も多い分野は半導体だが、それも全体の15~20%。年間で150~180社との取引があるという。半導体のほかには、電子、医療、自動車など幅広いジャンルの部品製造を請け負っており、その大半が県外だという。

生産管理システムで 進捗の見える化を実施

青山さんは大学卒業後、ニュージーランドへ留学して介護の資格を取得、現地で働いていた。2011年にクライストチャーチで大地震が発生し、日本へ帰国。その年に青山精工に入社し、総務に携わるようになった。同じころ生産管理システムを導入することになった。「いつ・誰が・何を・どの機械でやるか」という工程の進捗具合を見える化することで、短期対応にも活かされている。

「現場はシステムに慣れるまで少し時間が必要でした。今ではすっかり浸透し、機械や人員の稼働率などが見えるようになり、作業効率を上げることができました」。

生産管理システムを導入して約10年。今は不良品が発生した際の報告書の作成を徹底している。報告書には社長も目を通し、傾向を知ることで対策を講じ、ロスをなくすための努力を重ねている。



さまざまな素材を切断できるウォータージェット加工機をはじめ微細加工機、3Dプリンタ、超音波加工機など県内でも珍しい加工機をいち早く導入し、お客様の要望に応えている。



- ①各工程では管理システムを活用し「見える化」を推進。
- ②現在は女性が6名ほど。青山社長が引き継いでから女性従業員が増えた。
- ③工場内には多種多様な設備があり、穴加工、タップ加工、丸物切削、丸物研磨、平物切削、平物研磨など素材も加工も幅広く対応できる。

幅広い情報を収集し、 柔軟に技術を掛け合わせる

子どものころはあまり仕事をする父の姿を知らなかったと話す青山さん。ともに働くようになり、先代の新しい面を知るようになったという。

「父はとても人が好きで、取引先の役に立ちたいという思いが強い。稲盛和夫さんの盛和塾にも参加していたのですが、利他の精神を大事にしていました。そしてそれは従業員とその家族に対しても同様です。私もその思いを引き継いでいきたいと感じています」。

現在社員は43名。コミュニケーションの一環として、月に1度社報「PLUSの風」を発行し、家族にも目を通してもらいたいと考え、社員の自宅に郵送している。

「現在、自社商品の開発プロジェクトを進行中です。自社の強みにもなるし、地元にも貢献できればと。現状維持は後退であると考え、常に新しいことに挑戦していける、そんな企業でありたいと思います」。



株式会社 青山精工
代表取締役 青山 亜起菜

〒018-5337
鹿角市十和田末広字紀ノ国平42
TEL.0186-35-3350 FAX.0186-35-4887
https://www.aoyama-pi.co.jp/

◎業務内容 精密機械加工、治工具、省力機設計製作、難削材加工(セラミックス超硬脆弱材)、3Dプリンタ試作品(医療、航空分野)